

東京の生協のまちづくり活動トピックス

東京の生協では、都内フードバンク団体や子ども食堂などと連携して、生活困窮者の支援に取り組んでいます。それぞれの生協の特徴や強みを活かし、取り組み方はさまざまです。今回は3つの生協と東京都生協連の取り組みを紹介します。

コープみらい フードドライブ・スタディドライブの取り組み

コープみらいでは、組合員活動として店舗や組合員施設に個人が持ち寄った食品や文具を寄贈する専用ボックスを設置したり、定期・不定期で店頭などで呼びかけを行ったりして、集まった食品・文具をフードバンク等に寄贈するフードドライブ・スタディドライブ活動に取り組んでいます。

東京都内コープみらいの
店舗・施設でのフードドライブで
お寄せいただいた食品の累計
(2022年4月～2023年2月)

4,942.9kg

東京エリア
常設食品寄贈ボックス設置施設
(10/4時点)

コープみらい店舗 12カ所
葛飾区・足立区・中野区・調布市・
西東京市・府中市・町田市・八王子市・
多摩市・青梅市
コープみらい組合員施設 1カ所
立川市



東都生協 組合員の温かな思いを配送トラックで集めてフードドライブを実施しています



調布センターに集まった支援品

2017年より東都生協では、「食に困っている人に思いを寄せながら“もったいない”を“いただきます”にかえる活動」の一つとして、配達時に組合員の皆さんから寄せられた食品等を配送トラックで集めるフードドライブを実施しています。現在では、10のセンターがそれぞれの地域でつながりのある17の支援団体に集まった食品等をお届けしています。フードドライブは、連携している団体ごとに期間を決めて実施しており、事前にチラシを配付して支援を呼びかけます。集まった食品等の仕分けは、職員やお届け先となる支援団体の皆さんだけでなく、チラシで呼びかけた仕分け作業ボランティアの組合員の皆さんも一緒に行きます。実施にあたっては、食品等を預かる配送担当の職員も事前に学習し、組合員と職員が一緒になって地域社会に貢献することの大切さを感じることができています。またボランティアの組合員の皆さんも、仕分けの様子等を写真入りでリピートすることで、回を重ねるごとに支援の輪が広がってきています。また、フードドライブの取り組みのほか、予備として調達した余剰野菜の提供を行っているセンターも多くあります。今後も連携する支援先と対象地域を広げながら活動を続けていきます。



支援先団体と組合員ボランティアで仕分け作業

自然派くらぶ生協 困ったときはお互いさまの食料支援

自然派くらぶ生協では、組合員から寄付された食品や募金をフードバンク八王子えがおや子ども食堂に提供する取り組みを2018年から始めています。2023年6月までに食品は2,000kg以上、募金は518万8,900円が集まりました。支援先の団体には、自然派くらぶ生協の組合員もいて、お互いに協力し合える関係となっています。

9月にもフードドライブ活動を実施したところ、今回は東京都からの支給米がたくさん集まったのが特徴でした。それ以外にも麺類、お菓子、飲料など多くの食品が集まりました。集まった食品は、そのまま支援団体に渡すのではなく、ボランティア活動などを行っている組合員活動組織「虹の会」で一品ずつ賞味期限を確認し、種類別に仕分けしています。多くの食品が集まった分、大変な作業ですが、仕分けを行う組合員はテキパキと活動されていました。

11月には子ども応援募金と題して組合員から募金を募り、給食のない冬休みの食料支援に使ってもらいます。



東京都生協連 CO・OPの日用品をフードバンク団体等に寄贈。支援につなげました

9月に日本生協連より、生活困窮者への支援品としてCO-OP防湿シート2種類、合計158箱、1.4トンの寄贈があり、全ての支援品を東京都生協連と日頃よりつながりのあるフードバンクなど5団体にお渡ししました。それぞれの団体を通して、フードパントリーや子ども食堂へ届けられ、活用していただくことができました。

